

別記第1号様式(第7関係)

## 会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		令和4年度 第2回教育に関する事務の点検・評価委員会
事務局(担当課)		庶務課
開催日時		令和4年11月30日(水) 午前9時30分～正午
開催場所		池袋第一小学校 1階多目的室
議 題		(1) 評価対象施設視察 池袋第一小学校・子どもスキップ池袋第一 (2) 評価対象事業のヒアリング及び質疑応答 「学校施設環境改善交付金対象事業」「放課後事業の充実」
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開      傍聴人数 0 人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委員	美谷島 正義 福本 みちよ 大野 春美(敬称略)
	その他	教育長、教育部長、教育施策推進担当課長、学務課長、放課後対策課長、学校施設課長、教育センター所長
	事務局	庶務課長

## 審 議 経 過

発 言 者	発 言 要 旨
美谷島委員長	<p>【開会】 池袋第一小学校・子どもスキップ池袋第一視察 休憩</p>
美谷島委員長	<p>それでは、会議を再開させていただきます。議事に入りたいと思います。まず初めに傍聴の有無について、事務局からお話しいただければと思います。</p>
石崎庶務課教育計画グループ 係長	<p>本日の傍聴希望者はございません。以上でございます。</p>
美谷島委員長	<p>ありがとうございます。 それでは、議事の1の評価対象事業のヒアリング及び質疑応答、①「学校施設環境改善交付金対象事業」についてシートに基づいてご説明いただきたいと思います。宇野課長よろしくお願い致します。</p>
宇野学校施設課長	<p>【議事（1）「学校施設環境改善交付金対象事業」の説明】</p>
美谷島委員長	<p>ありがとうございました。それでは質問等を受けたいと思いますが、施設見学の感想も含めてどうでしょうか。では福本委員お願いします。</p>
福本委員	<p>まず、校舎を拝見して一番思ったことは、非常に使いやすいですし、昔の学校建築と違ってこれはこう使わなければならないという発想で作られていないので、いくらでも学校や先生方がどう使うか発想が広がる、子どもの教育活動もどんどん変わっていくだろうということで、非常によい建築だなと思いました。本当にお金をかける価値のある建築だなと思いました。一方で一番思ったことは、この学校だけが使う建築にしておくのは区としてもったいないのではないかと思います。というところで2点質問です。</p> <p>1点は、今のシートの豊島区教育ビジョンにおける位置づけというところで、教師力の向上と魅力ある学校づくりというところに位置づけられているということですが、魅力ある学校づくりは建築だけではないと思うので、この建築をどう使うかによってどう魅力ある学校になっていくのかということだと思います。したがって、教師力の向上というところで、今後こういう建築になったからこそ教師力がこういう風に上がっていく可能性が見えるのではないかと、まだ使い始めたばかりだと思いますので結果は出ていないと思うのですが、その辺の見込みとお考えかどうかというのが1点です。</p> <p>それともう一点は、先ほど申し上げましたが、この学校だけの宝物にしておくのはもったいないと思います。それで今どんどん学校の中に地域の施設が入ってきて、要は学校の物ではなく地域の建築物という発想でいくとこれをどう地域のために活用できるのかという見込みはどのようにお考えなのか、という2点を教えていただきたいと思います。</p> <p>1点目の教師力の向上については、指導課も少し関係するかもしれま</p>

美谷島委員長	<p>せんで申し伝えておいていただければ、次回そのような話が出るのではないかと思います。それでは2点お願いします。</p>
宇野学校施設課長	<p>ありがとうございます。</p> <p>教師力の向上というところでございます。確かに今御覧頂いた中で、様々な発想を喚起するような仕掛けが学校には敷き詰められていたのではないかと思います。これについて、学校の改築に際しては豊島区での話ですが、設計にあたる前に考える会という会議体を設定しており地域の町会の方やPTAの方、学校の職員さんに参加いただきまして、どんな学校にしていきたいか、どんなことができる学校にしたいかということワークショップ形式で議論する場を、設計に入る前に設けているところでございます。平成20年代の改築から綿々と受け継がれてやってきているところで、そうした発想を建築された学校において、それぞれ先生方のほうでも広がってきていければという風に、ハードを整備する場合があると考えているところでございます。</p> <p>また2つ目の地域の方々のためのという部分でございますが、学校に求められる役割というものが、昔と今でかなり大きく変わってきております。地域とのコミュニティを創設する場ですとか、この校区においては木密地域であったという背景がございまして、防災機能の強化というテーマも改築には込められておりました。学校が昨今救援センターとしての役割を大きく担う施設として存在することになったところで、今回パンフレット最終ページの広場が掲載されているかと思うのですが、もともと児童遊園だった地域で、そこを教育財産として学校地域に組み込むことで防災時・発災時の集まれる場所として、またアリーナに面した形で配置しておりますので、防災機能の強化という側面・機能も持たせたというところでございます。こうした防災面でも機能強化と合わせて、地域の方とのつながりがより深まりやすいような形で、今回校舎全体ご覧になっていただいたのですが、セキュリティ以外、外壁・フェンスがあまりない学校なのかなという風に感じられたかと思えます。こちら北側は建物のセキュリティラインとして存在しております、外壁という形で設けていない状況になっております。そうした形でも踏み入れやすい学校というところで、もちろんセキュリティ自体は確保していかなければいけないですが、そうしたところも配慮しながら建築を考えているところでございます。</p>
美谷島委員長	<p>よろしいでしょうか。</p>
福本委員	<p>はい、ありがとうございます。</p>
美谷島委員長	<p>大野委員。</p>
大野委員	<p>今日見学させていただいて、うわさには伺っておりましたが、地域の皆さんからの考える会のご要望もいただいて、もうここまでかと思うほど最高ですね。一番すてきなと思ったのは、図書室ですね。学習情報センターということで、本が好きな、読書が好きな子供に育てたいと思っております、ここに来たいな、いたいな、調べてみたいな、目を外にやればビオトープもあって、これから稲も育てるということでしたので、すごく素敵だな、幸せだなと思えました。</p> <p>これからたぶん、近隣の児童が増えてくるのではないかなと思えました。本音を言いますと、地元の富士見台小学校は大変老朽化しております。ここにありますが、図書室改修ということで、実は図書室と家庭科</p>

<p>美谷島委員長</p>	<p>室をチェンジして、とてもきれいになって、生まれ変わったような、やはり子供たちが図書室へという願いができていて幸せだなと思いました。さらにグラウンドが置き換わっておりますので、今日もきれいだし、この間スキップ祭りで南池袋小学校に行ったらやはりグラウンドきれいだったので、そういうどこにお金かけるか決めるというのはどういうシステムになっているのかということも伺いたいと思います。</p> <p>あとは、やはり防災センター・救援センターになっていきますので、本当はちょっと見せていただきたかったです。やはり地震や台風ということで、うちの息子が台風で地域の小学校におばあちゃんと一緒に避難をしたときに大変だったということで、床ですしどんな防災品をそろえてくださっているのかというのを見たいし、ますますそういう心配もありますので、そんなところは伺ってみたいと思っております。</p>
<p>宇野学校施設課長</p>	<p>では改修要望もありますので、よろしく願います。</p> <p>諸々の改修要望については、年 1 回学校から去年ご案内差し上げたところですが、改修要望調査というものを学校にお願いしておきまして、ここをどうこうというような形の要望を吸い上げたうえで、学校施設課と施設整備課・施設整備所管とのヒアリングを通して、修繕というのは決めているところでございます。おっしゃったような校庭ですとか、プール・屋内体育館ですとかそうした大きな学校設備におきましては、施設整備課のほうで施設改修計画を立てておきまして、それぞれのハードによって耐用年数がある程度のスパンで決めておきまして、例えば校庭であれば 15 年から 20 年の間に改修を行う。というような形で、年次で今年はこの学校の校庭・この学校のプールといったような形で予算配分の中で改修を計画的に計画保全の観点から進めているところでございます。</p> <p>2 点目の質問の防災の用品については、一応建築当初としては防災敷材については保管する場所をこちらではしつらえるという形でセットしております。今回開校にあたって、これまであった仮校舎や旧校舎にあったものを含めて、防災危機管理課のほうで地域に必要な防災敷材をご用意いただいて防災倉庫のほうに格納していただいているという流れでございます。</p>
<p>大野委員</p> <p>美谷島委員長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>よろしいでしょうか。</p> <p>では私のほうからですね、今日はありがとうございました。普通教室もぱっと見て意外と広く感じたし、それから新しいという部分もあって普通の改修でつけると、プロジェクターの位置も左側によっていたりして、南から陽が入ると見にくいところがありますが、だいたい真ん中に設置されていて非常に落ち着いた環境で児童が勉強できるのではないかなという感想を持っております。細かなところまで建てる時にいろいろ考えられて、前年千登世橋中学校もそうでしたけど、そういった面で豊島区さんは、先ほど考える会ですか、そういった意見等を聞いているということは非常にいいなと評価いたしました。</p> <p>それともう一つ、これだけの校舎ですから当然、先ほど大野委員も言った通り人気が出てくると思うのですよね。私は個人的に学生の頃に池袋のもう少し先の豊島中央病院のあたりで塾の教師をやっていたことがあるので、そういった流れの中でいうと木密地域、小さな家がいっぱいあって、それがだんだん建て替えてでっかいマンションがドバっとでき</p>

<p>宇野学校施設課長</p>	<p>ると、今 2 クラス設定ですよ。児童数の推移というか、それはどう考えているのですかね。例えばこれ 2 クラス設定ですよ。今人数もそんなに多くないですが、将来的には大変になるのではないですか。</p> <p>はい。ご指摘いただいたように、児童数の増加については、もちろんこれまでの 0 歳から 5 歳の未就学児の児童数とこれまでの学区内への進学率といったものから推定するものと、学区内に大型マンションができるというケースの 2 つに分かれて、それを合わせていずれにしても教室数が足りなくなるということはあってはならないので、地方とはまた別の側面で豊島区では局所的に教室数を確保しなければならない工事、ここ数年ほぼ全域の学校でやっているという状況でございます。今回改築においては、今後の池袋第一小学校、現在 300 名ちょっとの児童数ですけど、次の 1 年生、今の 5 歳児の応募状況を見るとさっそく 3 クラスになるという見込みになっておりまして、現在各学年 4 クラス対応できるように教室数を確保しております。少人数教室や多目的室といった形での用途はもちろんありますが、基本的に改築時には児童数の推移と人気が出て児童が集中するという想定を受けて、教室が足りないということがないように確保しているところでございます。未改築校においては、校舎のキャパシティがどうしても限界がありますので、これまで少人数教室で使っていた教室を普通教室に転用したり、学校内での転用が利かない場合は、校舎内で別棟を建てるといった施策を始めている学校もあるところでございます。</p>
<p>美谷島委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>もう一つ、先ほど大野委員が言った質問と重複するところがあるのですが、防災機能がありますよね。千登世橋中学校もマンホールトイレとか、そういうのがありますが、これだけの木密地域という部分で、方向性としてこういうものを特色として入れたというものはありますか。</p>
<p>宇野学校施設課長</p>	<p>はい。木密地域に存在する学校ということで、基本的に求められる機能は延焼を防ぐという機能になります。住宅密集の中でこれだけの広いスペースを用いて、一か所で起こった発災について延焼を防いでいくということで、基本的にこれまで豊島区の改築でもある程度は行われているところではあります。学校の周囲ですね、そこに歩道上の空地を設けるようなしつらえをしております。もしお帰りの際にぐるりと回っていただければと思いますが、これまでフェンスで仕切られていた公地に歩道を設けてセキュリティラインという形で校舎が建っているという形で、こちらのパンフレットにあります。防火樹林帯という形で周囲ですね、例えば C とか B のあたりに樹林帯を設けて樹木といったような機能も持たせております。北側の空地ですとこちらのゾーンですが、今申し上げた歩道上の空地は I の部分ですね。このあたりに空地が設けられているので、このあとご覧になっていただければなと思います。</p>
<p>美谷島委員長</p>	<p>はい、ありがとうございます。他にご質問ありますか。よろしいですか。</p> <p>それでは続きまして、2 番目の議題に入りたいと思います。よろしいでしょうか。宇野課長ありがとうございます。それでは、「放課後事業の充実」についてということで、小野課長お願いします。</p>
<p>小野放課後対策課長</p>	<p>【議事（2）「放課後事業の充実」の説明】</p>

美谷島委員長	<p>はい、詳細なご説明をありがとうございました。それでは委員の方からご意見ご質問がありましたらお願いしたいと思います。</p> <p>これは事業として第一小学校でやっているスキップ教室ではなく全体的ことですか。どうでしょうか。大野委員お願いします。</p>
大野委員	<p>はい、ありがとうございます。地域コーディネーターをさせていただいておりますので、スタートの時どうしてあんなに大反対の、会長会でもものすごく大反対の中スタートした事業が、今全校に安心安全の放課後の子どもたちの居場所づくりということで発展していることがすごくうれしく思います。少し心配なのは子供たちの体の部分で、コロナ禍になってやはりけがが多くなったということがとても心配なので、それが今課題としていただいたということと、子どもの人権条約ということでは、こども会議を設定して子どもたちの意見というか要望を取り入れているということで教育長から先ほど教えていただきましたが、例えばこども会議では具体的にどのような内容の決定事項とかがあったのか知りたいなと思ったので、教えていただけるとありがたいかなと思います。あとはただ今の説明の中の課題の②で、国のシステムとの違いがわかるようなお話をしていただけるとありがたいなと思いますので。</p>
美谷島委員長	<p>3つほどありますがよろしいでしょうか。小野課長お願いします。</p>
小野放課後対策課長	<p>はい。まず1つ目は、こども会議についてよろしいでしょうか。多くの子どもたちが集まってグループになりますといろいろな問題が起きます。喧嘩をしたりとか、実際スキップの中でもルールがあるのですが、ルールを守らないお子さんがいたりですとか、そういったところをみんなでもうどうやって解決していくかということで、本当にそのルールが正しいのか、ルールを守らないということであればルールを変えていくとか、あるいは喧嘩になった原因をみんなで話して、もちろん一人のお子さんがいじめにならないようにしなければならなとは思いますが、そういった気を使いながら運営を親や大人・職員が決めたルールを守らせるのではなくて自分たちでルールを作っていく、そういった内容を中心に実施しております。</p> <p>それからシステムの話でよろしいでしょうか。国のほうはもう標準化する十何事業、事業名を決めております。標準化のパッケージを国のほうで各自治体に持ってきましてそれに合わせて事業を進めていくということで、区独自でやっているものは、もうパッケージに入っておりませんので、やめてしまうのか、あるいは独自で別でシステムを調達してサービスを続けるのか、そういったことになっております。その中で学童クラブは入っていないので、今豊島区で使っている学童システムは令和7年に終了してしまいますので、豊島区として学童クラブのシステムを購入する必要が出てくると思います。私の中ではそういうものは販売していると思っておりますので、逆に言うと先ほどお話ししました通り放課後対策課・豊島区子どもスキップに合うシステムを導入するあるいは、カスタマイズできるという意味では非常に柔軟性が残されたなという風に思っております。単にシステムを導入するのではなくて、今までの仕事プラス職員の仕事が楽になる、そして保護者も使いやすい、いちいちお休みは電話とか FAX とか、連絡帳も手書きですけど、そういった機能を例えばスマホから利用できて、今日帰りは何時だとかそういったことをスマホからできる機能を入れることで行政側も利用者側も楽になる、そういったシステムを入れられればなと思っております。</p>

大野委員	ありがとうございます。あとはけがの対策についてはこれからまたさらに…
小野放課後対策課長	そうですね。毎年けがの分析についてはやっております。特に今簡単にけが、昔は打撲でも、すぐ骨折してしまいます。富士見台でも連続して骨折して、今骨折すると大けがになってボルト入れたり、放課後のそういうけがで学業のほうにも影響が、例えば字が書けなくなったり給食の時間にご飯を食べるのが大変だとか、そういうこともございますので、できるだけけががないように分析しながら対応していきたいと考えております。
大野委員	ありがとうございました。
美谷島委員長	よろしいですか。では福本委員、お願いします。
福本委員	<p>ありがとうございます。</p> <p>1点教えてください。所管が教育委員会のほうへ移行したということが資料で報告されていて、学校との連携も強化していくというお話があったと思うのですが、事業シートの最後のところにあります、例えばヒヤリハットを共有するとか、防災とかそちらの面で連携するというのは必須のことだと思うのですが、一方で学校の先生方の立場にたったときに、頭では連携が必要と思っても、先生方そこまで情報は欲しいけれどもちょっと手一杯というところがあるのも実際現実なんじゃないかなと思うのですが、その辺学校との連携とか、言葉はすごくきれいだと思うのですが、実際にその中身を精査した時にどこまでが必要なのかというところがいい意味で区分けがあっても私はいいのかなと思いましたが、逆にこども会議をしたり、いろんな発表をしたりということで、こちらの事業はこちらの事業だからこそできることとか、子どもに限られてなくいつもと違うメンバーもありうるということなので、連携という言葉でラップをしてしまうよりは、逆にここまでは連携するけどここからはその事業独自のという発想で進めてもいいのかなと私は思ったのですが、そのあたりはどのようにお考えかお伺いできればと思います。</p>
小野放課後対策課長	<p>はい、ありがとうございます。</p> <p>基本的にはそれぞれ学校は学校、時間が変わると放課後事業という流れなのですが、一人の子どもを考えたときに連携の重要性というのは、一人の子どもをどういう風に教育委員会が見守っていくかということだと思っております。連携の中心はまずこどもの午前中の様子・午後の様子、もしかしたら保護者と家庭の様子も連携する必要があるという風に思っております。放課後の事業も独自にSDGsの取組ですとかやっております。その重要性はありますから、子どもも学校でやっているSDGsもありますので、そういう意味では子どもが混乱しないように、やはり子供中心で、学校でこういうことをやっているなら、その発展形としてスキップではこういうことをやっいていこうとか、そういった単に独自も重要ですが、やっぱり一人の子どもを見たときに混乱しないような学校との情報共有とかそういうのは必要になってくるかなと考えております。</p>
金子教育長	補足させてください。教育委員会に移管したのは私なので説明します。連携だけというのはどうなのだと、その通りだと思います。子供はやはり先生に見せる顔と先生が見ていないところの遊びの顔は、全然違っていいと思います。もともとそうですから。問題になるの

は、ちょっと困難を抱えた子ですね。特別支援に限らず、いろいろな家庭の問題とかもあって心配だなというお子さんに対して、要するに福祉的な観点ですね、福祉の最前線で学校内に入っている部分がスキップだという理解を私はしております、それ以外は遊んでくれればいいので、昔の児童館と一緒にいうことなのですが。やっと先ほどね、入る時大変だったと、本当にそうでした。学校側は教育委員会の者が入ってくるのは嫌われたので、最初学校内に遊びの場を作るといことは何事かということで大変でした。今はもうそれが無い学校は生徒が来ないので、つまり保護者が選びません。預けられない学校には行けないということでしょうやく 22 校当たり前になりました。ただそれは預ける機能という部分なので、僕が言っているのはそれより先に進んでようやく職員会議で特にさっき言っておりましたように、生徒指導・児童指導に関する職員会議の部分ですけど所長が入っていただいて、先生特に若い先生はどういう子がどういうことになっているのかわからないので、だけど教室でなんか変だなとか、いうこと聞かないなというのに関して、(所長は)情報をたくさん持っています。あるいは裏の顔を知っているといえますかね。先生には見せない顔を所長たちは知っている。そういう交換ができるということで、昨今はようやく貴重がられているというか、ぜひ来てくださいとようやく言うてくださるようになりました。校長先生も理解をしてくださる方がほとんどになりました。ここまで来るのに 10 年以上かかっております。やっぱりそこがあって、ですから 50 人いれば 50 人にそれがすべて必要かというときとそうじゃなくて、マイナーですけど少数だからこの子は心配だぞという子はいろいろな事情であるので、そのあたりが裏の顔も見ている、特に SSS (スクールスキップサポーター) 1 日中見ている人はその人だけです。先生方は午前の顔しか見ていない、スキップの職員も午後の顔しか見ていない。という部分があってそれぞれ違う顔を見せたりするので。どちらも本当のその子の顔ですが、そのあたりで困難を抱えていないか、大丈夫かということについてチェックができるのかなと思っております。もともと福祉職がたくさん入ってきておりますので、本来の福祉、センターや児童虐待など今度児相も来ますけれど、そういうところとの連携が濃くできるようになっておりますし、そういう意味で職も一緒なので、人事的にも回って来たりするので、そういうところを期待しているということで、学校としてもだいぶ使っている、最近では会議にも必ず呼んでもらっていると所長たちは言っておりますので、良かったなと思っておりますし、一緒になって例えば子供が家出とか、悪さやっていると、どうも児相問題だというときに、スキップは関係ないとか、学校だけとか、その逆とかそういうことはあり得ないので、校長先生と所長はだいたい今仲良くやっているの、良かったなと思います。相談しながら、役割分担しながら家庭のほうは私が行きますねといった感じで、いろいろな事件が起きるとすごく効果がわかります。そんなことで答えになりますでしょうか。

福本委員

熟成されてきたということですよ。ありがとうございます。

美谷島委員長

私のほうから一つお聞きしたいのですが、子どもスキップ運営協議会というのがあって、その中で地域子ども懇談会というのがありますよね。いわゆる構図的には。地域子ども懇談会というので意見がいろいろ出てくる、これは年に何回ぐらいやっているのですか。

小野放課後対策課長

基本的には 1 回でございます。



美谷島委員長	2回？
小野放課後対策課長	1回。
美谷島委員長	1回。懇談会は？
小野放課後対策課長	懇談会は1回から2回。
美谷島委員長	1回から2回。具体的にどんな話がでるのですか。
小野放課後対策課長	<p>まず大きな全体の協議会のほうですけれども、スキップの運営に関する、特に今年の8月にも実施しましたが、今まで一般利用をやっておらず制限してやっていたところ、コロナもそろそろ落ち着いてきたので運営を再開するけれども直接利用まではいかないけれども1回帰ってきてから利用するというのはどうか、その中でも直接利用をやったほうがいいのではないかとかそういうご意見を伺いながら、実際にスキップ全体の運営についてのご意見をお伺いするという場が協議会のほうで、懇談会のほうはスキップ独自でやっている子供教室や行事を地域の皆さんにお話をして必要があればスキップの運営に協力していただくと、スキップ単位の会議体というふうになっております。</p>
美谷島委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>ぜひ、形は作ったけれどもうまくつながらないとか、ボトムアップしないとか、そういうことがないようにいろんな人の話を聞いて、今までの豊島区さんのいろいろな事業を見ていると必ず地域を入れて、この建物もそうですけれど、そういうものをやっているの意見を入れて今後もやってもらえればなという風に思います。</p> <p>それでは時間も限られておりますので、全体を通して何かございますか。</p>
大野委員	<p>先ほどの話なのですが、地域の防災拠点になるということですので、新しくなった学校がどのぐらいの防災備蓄というか、備えていらっしゃるのかというのを知りたいと思います。リストで結構ですので、例えば床なので毛布とかどのぐらいご用意されているのか、簡易トイレとか、今後そういうことにすぐく力を入れてくださっているかと思うのでそれを知りたいなと思うので、もしよろしかったらお願いします。</p>
教育長	池一の例でよろしいですか。
大野委員	はい。
教育長	後で調べて、防災課のほうに確認して資料出させていただきます。
美谷島委員長	<p>次回でもお出しいただければと思います。</p> <p>他にございますか。よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、どうもありがとうございました。これで今日の議事は終えたいと思っております。後はまたちょっと3人で話し合いをさせていただきたいと思っております。どうもありがとうございました。</p>
	—閉会—

提出された資料等	【資料1】事業分析シート（学校施設環境改善交付金対象事業） 【資料1-1】視察ルート 【資料2】事業分析シート（放課後事業の充実） 【資料2-1】令和4年度ようこそ子どもスキップへ 【資料2-2】令和5年度豊島区の学童クラブご利用案内 【資料2-3】電子申請案内（保護者宛案内）令和5年度学童クラブ利用申請について 【補足資料】オリンピック・パラリンピックの機会を生かした教育の推進
----------	---